

「新たな倭国論」とは?

古墳時代は、奈良や大阪を中心とする^{やまと}大和王権が主役だと考えられてきました。しかし、最近の「造山古墳群」の発掘調査によって、これまでの歴史観が揺さぶられる発見が次々と明らかになっています。こうした新しい視点から、「新たな倭国論」を提唱しています。

どんな新説が出てきているんですか?



聞く人

最近歴史に興味が出てきた大学生



吉備造山古墳
つくりやま

北区新庄下

かつて「吉備」と呼ばれていた岡山。その吉備が5世紀初頭、大和とともに倭国(日本)の二大勢力を築いていた、という説です。
その理由を解説していきます!

根拠1

造山古墳は当時日本最大級だった!?

吉備の王墓「造山古墳」は5世紀初頭に造られ、墳長は350m。一方、同時期の^{かみいしづ}大和の大王墓「上石津ミサンザイ古墳」(大阪府堺市)は、墳長が360m。たった10mしか差がないことに驚かされます。

しかも、それまでの時代で300mを超える古墳はほかに見当たりません。つまり、今から1600年前の日本に、圧倒的に巨大な古墳が2つ存在していたことになるんです。

教えてくれる人

考古学者 草原さん

奈良で考古学を学び、岡山市内にある遺跡の発掘調査や古墳の測量調査を約40年間行ってきた

根拠2

吉備の王は単なる地方豪族ではなかった!?

奈良時代にまとめられた最古の歴史書、「古事記」と「日本書紀」によると、大和の大王が、各地の豪族を従えていたと書かれています。

しかし、注意深く読んでいくと、吉備出身の女性と天皇が婚姻関係を結んでいる事例が複数あり、吉備が天皇と親しい間柄であったことを示しています。

さらに、九州・東海・北陸・四国には吉備に系譜がつながる豪族があり、吉備が各地へ豪族を派遣していたことがうかがわれます。そのため、当時の吉備は倭国において特別であったことが分かります。



吉備は特別な存在だったんですね!



吉備は独自に交易していた!?

吉備が日本各地や朝鮮半島と交流していたことを示す資料が存在します。

まず、造山古墳の石棺には、熊本県で産出される石材が使われています。また、造山古墳の陪塚(※)である「千足古墳」の石室には、熊本県の天草から運ばれた石障や、香川県から運ばれた板石が使われていることが分かりました。吉備がそれらの地域に豪族を派遣したことで、返礼品として受け取っていたと考えられます。

さらに他の陪塚である「榊山古墳」からは、朝鮮半島から運ばれた馬形帯鉤、龍文透金具などが出土しています。それらは大和には見られないことから、吉備に直接運ばれてきた、つまり、吉備は独自で朝鮮半島と交流していたと考えられます。

※陪塚とは…身内、あるいは配下の古墳



造山古墳の石棺(熊本産)



国内外とのつながりを裏付ける出土品がそんなに見つかるなんて!



榊山古墳

千足古墳



馬形帯鉤(朝鮮半島産)



千足古墳の石障(熊本産)

➡ 以上のことから、吉備の影響力は大和と同じくらい強大だったと言えるのではないのでしょうか。



吉備と大和による二頭政治が行われていた、

と言えます。当時の倭国の状況をまとめてみると...



造山古墳に刻まれた、倭国の壮大な物語

5世紀初頭、吉備の王は大和の王と並び影響力を持ち、倭国において二頭政治を展開していた可能性があります。吉備と大和は協力しながら共同統治を行い、大陸からの脅威に対抗していたのではないのでしょうか。この時代の倭国は百濟、

伽耶と結び、新羅と結んでいた高句麗と戦い、朝鮮半島との交易路を確保していたのです。

造山古墳は、激動の古代史を今に伝えています。吉備が倭国において主役級の立場であったことを誇らしく思いませんか。

当時の吉備にこんなに力があったなんて知らなかった!



今年は!

「新たな倭国論」をさらに**深掘り**していきます!

深掘り 1 大型古墳の測量調査 その 9基の大型古墳を調査。倭国の謎に迫る!

岡山市に眠る全長100mを超える大型古墳の調査を始めます。対象となる古墳は、築造時期が造山古墳以前の浦間茶臼山古墳(東区浦間)や小盛山古墳(北区平山)など、国指定史跡を含む9基。調査の成果はSNSで発信します。そして日本遺産の登録や新たな史跡指定を目指します。



二頭政治を裏付ける、新しい発見があるかも!

深掘り 2 造山古墳と陪塚の築造当時の姿をCGで再現 その VR映像でよみがえる、築造当時の造山古墳

造山古墳と6基の陪塚のVR動画を制作しています。築造当時の堂々たる姿を、まるでその場にいるかのように体験でき、古代吉備の強大さを実感できます。動画は造山古墳ビジターセンターで視聴できる予定です。



造山古墳の築造時の再現(イメージ)

深掘り 3 馬型帯鉤・盾形埴輪の複製品を初めて制作 その 貴重な出土品をレプリカにして制作・展示

榊山古墳から出土した、青銅製の帯留めである馬型帯鉤や盾形埴輪などを複製し、造山古墳ビジターセンターで展示します。豊かな出土品からは、古代吉備における朝鮮半島との交流がうかがえます。



盾形埴輪

行ってみよう!

吉備の歴史ロマンを堪能!

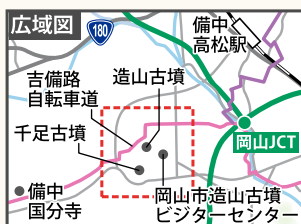
「岡山市造山古墳ビジターセンター」

造山古墳を訪れるなら、2020年にオープンしたビジターセンターにも立ち寄ってみましょう。

出土品のレプリカをはじめ、古墳にまつわる興味深い展示や情報に出合えます。さらに、日本遺産に認定された「『桃太郎伝説』の生まれたまちおかやま～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～」の情報や、吉備路の観光情報も発信しています。

岡山市北区新庄下789

開 10:00～15:00 休 月曜日(祝日の場合は直後の平日) 年末年始 Pあり 岡 観光振興課 Tel 086-803-1332



造山古墳蘇生会 会長 定廣さん

ビジターセンターには「造山古墳蘇生会」のメンバーが常駐し、観光客や授業で訪れる子どもたちに、造山古墳群の歴史的価値を伝えています。古墳巡りのアドバイスなど、興味深い話も聞けますよ。



古墳以外にも
見どころはありますか？



岡山市は
歴史・文化遺産の宝庫
なんです！



市内には、日本遺産、万富東大寺瓦窯跡、岡山城など、古墳以外にも市民が誇れる歴史・文化遺産がたくさんあります。それらを県内外の人たちに貴重な観光資源としてアピールしているんです。日本を代表するような歴史・文化遺産が、途切れることなく連綿と紡がれています。

今、注目すべき歴史・文化遺産は？



「桃太郎伝説」の 生まれたまちおかやま

～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～

吉備には、吉備津彦命が鬼である温羅を退治した伝説があり、舞台となった「鬼ノ城」や、命の盾となった巨石群が今も残っています。この鬼退治の物語が、桃太郎伝説の原型ともされ、古代吉備の繁栄を今に伝えています。



吉備津神社(北区吉備津)



荒波を越えた男たちの 夢が紡いだ異空間

～北前船寄港地・船主集落～

江戸中期から明治時代に、瀬戸内海と日本海を航海した北前船は沿岸の港に巨万の富をもたらしました。西大寺会陽など東区西大寺地区の歴史文化遺産が構成文化財として登録され、海に命をかけた男たちのロマンを今に伝えています。



西大寺観音院(東区西大寺中三丁目)

戦国時代を彩る、 宇喜多直家公ゆかりの城

岡山には、備前・美作一帯を統一した戦国大名の宇喜多直家公にまつわる城が残っています。岡山城をはじめ、乙子城、亀山城、金川城などなど。戦国の世に思いを馳せながら、城巡りをしてみては。



岡山城(北区丸の内二丁目)

2027年1月(予定)岡山市 で東大寺サミット開催

奈良県の東大寺の造営・再建に関わった自治体が集い、文化遺産を活用した地域づくりを目指します。東区瀬戸町万富地区では、源平合戦で焼け落ちた東大寺再建のための瓦を生産していました。

歴史が苦手な人も、ちょっとレキタビ
歴史が苦手な人も、ちょっとレキタビ
歴史が苦手な人も、ちょっとレキタビ

あなたの知らない岡山の歴史、再発見！



「おかやまレキタビ」

＼詳細はコチラ／



「本能寺の変は、岡山の武将が引き金？」「児島湾は全国で初めての人工湖だった」
「岡山の発展は宇喜多直家公のおかげ？」など、知っているようで知らない岡山の歴史を探しに行きませんか。このほか、ミニクイズや岡山の歴史を巡る旅のモデルコース、インスタ映えスポットなども紹介。ちょっと気になる…と思ったら右上のQRコードをチェック！



いろんな歴史ロマンが
まだまだあるんですね！

これからも
岡山市の歴史に
注目です！

